



申6号 年末手当等に関する申し入れ 第2回団体交渉を行う！ その1

11月1日の第1回団体交渉以降
中央本部に届いた声は

私たちの現実を受け止めた回答を！



6000件以上



第2四半期決算を3期ぶりに黒字に転換させたのは、
組合員・社員の奮闘とたゆまぬ努力の結果だ！

春闘や夏季手当における
会社回答について

納得感ある	2%
納得感なし	81%
会社回答は職場の努力に 報いている	3%
報いてない	87%

交渉の最後に行った組合の主な主張

- ・黒字転換は職場の努力の結果であることは一致してきた。
- ・増収増益、黒字転換のペースをつくり出したのは職場、組合員・社員のたゆまぬ努力であることを会社は受け止めるべきだ。
- ・物価上昇については、賃上げ・春闘での重要な課題とすべきことを前提に、物価上昇に賃金が追い付いていない現実であり、年末手当の支給の重要な要素とすべきである。
- ・社員が安心して働ける環境づくりの中に、生活を守ることも含まれると回答があったが、**私たちは生活なくして労働力を提供することはできないこと**を、改めて認識すべきである。
- ・人材流出について会社も強い問題意識があるということだが、心身ともに会社離れが起きている現実に危機感を持つべきだ。
- ・施策の実施によって労働密度は高まり、会社からすると生産性が上がっていることから、年末手当支給の重要な要素とすべきである。
- ・**組合員・社員の力・モチベーション維持・向上なくして会社の持続的発展は成しえない！**
- ・コロナ特別手当の趣旨に踏まえてしっかり応えるべきだ。働き度に見合った手当を支給すべきだ。
- ・JR東日本グループで働く組合員・社員、それを支える家族を大切に、魅力ある会社を作る姿勢を見せるために満額回答を強く求める。

職場の努力に報いて、 満額回答を強く求める！

会社の主な主張

- ・第2四半期決算の黒字は、社員の皆さんの努力であり感謝申し上げる。
- ・通期の黒字に向けてはまだまだ相当な努力が必要である。
- ・黒字基調をつくり、しっかり取り組んで結果を出す。厳しい下期になる認識は持ちつつ、安全・安定輸送を行いつつ、様々な施策、構造改革を進めてきた。成果につながるよう取り組むことも大事である。
- ・議論の中で、組合員の声として生活実感・労働実感を頂いたことは否定しない。社員の声も聞いている。物価動向については新賃金の中で判断する考えに変わりはないが、現状を踏まえて夏季手当議論時のスタンスに変わりはない。
- ・人材流出には危機意識は持っている。やりがいの創出など愚直に取り組んでいく。
- ・コロナに関してもいろいろな声が出ている。最善を尽くしていただいている。
- ・それぞれの要素一つひとつが大切であり、年末手当は業績を前提に総合的に勘案していく。早期合意が図れるように会社として早急に判断したい

通期の黒字に向けてまだまだ相当な努力が必要である。 その2へ